

引津校区社協だより



〈退任のごあいさつ〉



この度、会長を退任することになりました。わずか1年という短期間の会長でしたが、私にとっては地域の社会福祉を考える貴重な1年でした。また、民生児童委員・福祉委員をはじめとした様々な方に支えられて、なんとか会長の職責を果たせたのかなと思っています。心より感謝申し上げます。今後もできる限り校区行事等に参加し、住みやすい引津校区を目指して協力できればと思います。

結びに新年度より引津校区社会福祉協議会の活動体制の変更が実現され、より良い社会福祉事業が推進されることを祈念申し上げ退任の挨拶といたします。誠に世話になりました。

引津校区社会福祉協議会会長 鎌田 龍一郎

一年を振り返って

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類となり、行動制限が解除される中、校区社協活動が活発化した1年でした。

とりわけ一人暮らし高齢者お楽しみ会は、4年ぶりということもあって参加者も多く、大いに盛り上がりました。

地域ささえ合い会議も2回開催をされ、地域で行われるイベントに積極的に参加しようという方針に基づいて行動しながら、認知症に対して理解を深めるためのワークショップも実施されました。

また、70歳以上の必要な人等に備えていただいている見守り台帳は、3年に1度の全員確認ということもあり、新規の人と合わせて大変な作業数になりましたが、暑いなか区長・民生児童委員・福祉委員が力を結集して乗り切ることができました。

ただ、子どもたちが楽しみにしていたチャイルド広場(みかん狩りとクリスマス会)が日程の関係で残念ながら中止となりました。

組織的には、広報・見守り・児童の三部会が新たに発足し、スムーズな運営を行えるようになりました。視察研修では南風と深江の各校区社協を訪問し、先進的な活動を学ぶことができました。

来年は、さらにパワーアップをして住み慣れた場所で安心して暮らしていける地域づくりを目指して頑張っていきたいと思っています。

副会長・民生児童委員 小金丸 康文(芥屋1)



【香典返し】(令和5年12月16日~令和6年3月20日受付分)



皆様からの善意のご寄付は、引津校区社会福祉協議会の福祉事業に大切に活用させていただきます。

ありがとうございました。

〈寄付者〉

丸田 藤人様
山内 久美子様
馬場 奈穂美様

〈故人名〉

丸田 正貴様
山内 俊三様
荻 哲子様

〈行政区〉

芥屋
船越
芥屋

視察研修のご報告



冬の中休みのような暖かい1月30日、校区社協の視察研修に参加いたしました。

午前中は南風校区。小学校のなだらかな丘陵の校庭続きにコミュニティセンターがありました。

10行政区で人口約8,500人、各委員や団体等の構成、組織の層の厚さには感心しました。多岐にわたる福祉活動の推進には、5つのチームで企画・運営しているとのこと。

地域食堂「ひまわりキッチン」の取り組みには、驚きでした。

午後からは19行政区からなる深江校区に移動。人口や70歳以上の単身世帯も約1割と活動内容も引津校区とよく似ていました。

視察を終えて、ささえ合う社会は地域住民みんなでの見守りやお互いさまの心、助け合いからなるのだな…と思いました。

民生・児童委員 檜崎 洋子(新町)

1月30日、区長・民生児童委員・福祉委員ほかと南風校区社会福祉協議会の視察に行き、校区社協の運営、組織、役割や会議、事業の実施状況など説明を受けました。

南風校区は、平成12年に誕生した若い世代を中止とした校区で、校区社協は会長を中心に各役員の方が熱心に活動され、各事業を実施されています。特に役員を辞めても引き続きOBとして携わり、会を支え続けていらっしゃるということです。

女性の会長さんは活気あふれる強いリーダーシップがある方で、皆さんを引っ張っていかれ、まとまりあるチームを作られている印象で、組織・事業の運営など何もかもが進んでいると感じました。この視察をきっかけに、少しずつですが私たちの引津校区社協もより良い運営に取り組み、住みやすい素晴らしい引津校区になれば…と思います。

民生児童委員 友納 和也(御床)

お一人暮らし高齢者の見守り活動について

民生児童委員を委嘱され1年が過ぎましたが、最初の活動は「独り暮らしの高齢者への物品配布と併せた見守り活動」でした。私の担当地区は2行政区で若干戸惑いもありましたが、前職の経験(推進業務)で概ね家もわかり役に立ちました。実際に活動し会話して色々と感じることがありました。まず私のことを聞かれ説明すると、「まー、あなたのお父さんと主人は仲が良くてお世話になりよったとよー」と言われ、今は亡き父のことを思い出し懐かしく思った事や高齢の女性の方にお菓子等を手渡したとき「お菓子よりも、うまーか焼酎のほうがよかとばって…」と冗談を言われ、「これだけ元気なら当分は世話無しやな…」とほのぼの感じたことなどありました。

ただ、一般的には一人暮らしで「ちょっとした悩み事」などを遠方に住んでいる身内に話しづらくて困っており、身近な近隣の住人や我々民生児童委員ができるだけ寄り添うことの大切さを改めて痛感しました。

今では10数名いらっしゃる一人暮らしの方の名前も所在も完全に覚えられましたので、今後の活動を活発に行いたいと思っています。



民生児童委員 山崎 秀夫(岐志岡、野辺福の浦)